

芝浦工業大学マネジメント研究科客員教授
谷口博昭

「道の駅」は、平成5年4月に登録が開始されて以来、現在までに1040駅が登録されている。

道の駅は「休憩」、「情報発信」、「地域との連携」の3つの機能に加え、中越地震から

道の駅、地方創生の拠点に

東日本大震災に至るまでの復旧活動等における「道の駅」の「防災」機能が評価され、重視されてきている。

「道の駅」は発足から20年を経てセカンドステージに入

った。その評価の高さやブランド力に期待し、情報通信や流通関係業等に携わる方々がビジネスチャンスとして捉え、種々の動きが見られる昨今である。

国土交通省では、現下の最

重要政治課題の一つである「地方創生」の拠点として「道の駅」を活用する提案等の募集を開始している。「道の駅

の機能強化を図り、地方創生の拠点とする先駆的な取り組み

みをモデル箇所として選定、関係機関が連携の上、計画段階から総合的に支援する」と報道発表資料にある。

「道の駅」の評価の高さは、道路管理者と地域とのコラボレーションにあり、地方の創意工夫やアイデンティティー

の尊重と、一定レベルの質の維持・統一性との絶妙なバランスが命である。

中央発の画一的な流れに飲み込まれないように、地域の個性や独自性をどう担保するか、「道の駅」連絡会等を活用し

つつ地方の頑張りを期待

したい。

これまでの延長上ではなく、失敗は成功の基”というくらしいのチャレンジ精神と、地方の裁量で創造性が遺憾なく発揮し得るような柔軟かつ弾力的なマネジメント力を望みたい。

国と地方並びに官と民が、「道の駅」の今日的意義を再定義し、コミュニケーションの向上を図りつつ新たな価値を創造し、「道の駅」が進化し、「ひと・まち・しごと創生」

に資することを期待したい。